

傷病程度別搬送人員の推移に関する追加分析

- 傷病程度別搬送人員の構成比の推移をみると、軽症は約半数のまま横ばい、中等症は増加し、重症は減少している。
- 一方で、搬送人員の実数の推移をみると、軽症及び中等症は増加し、重症は横ばいである。

図 1 傷病程度別搬送人員実数の推移

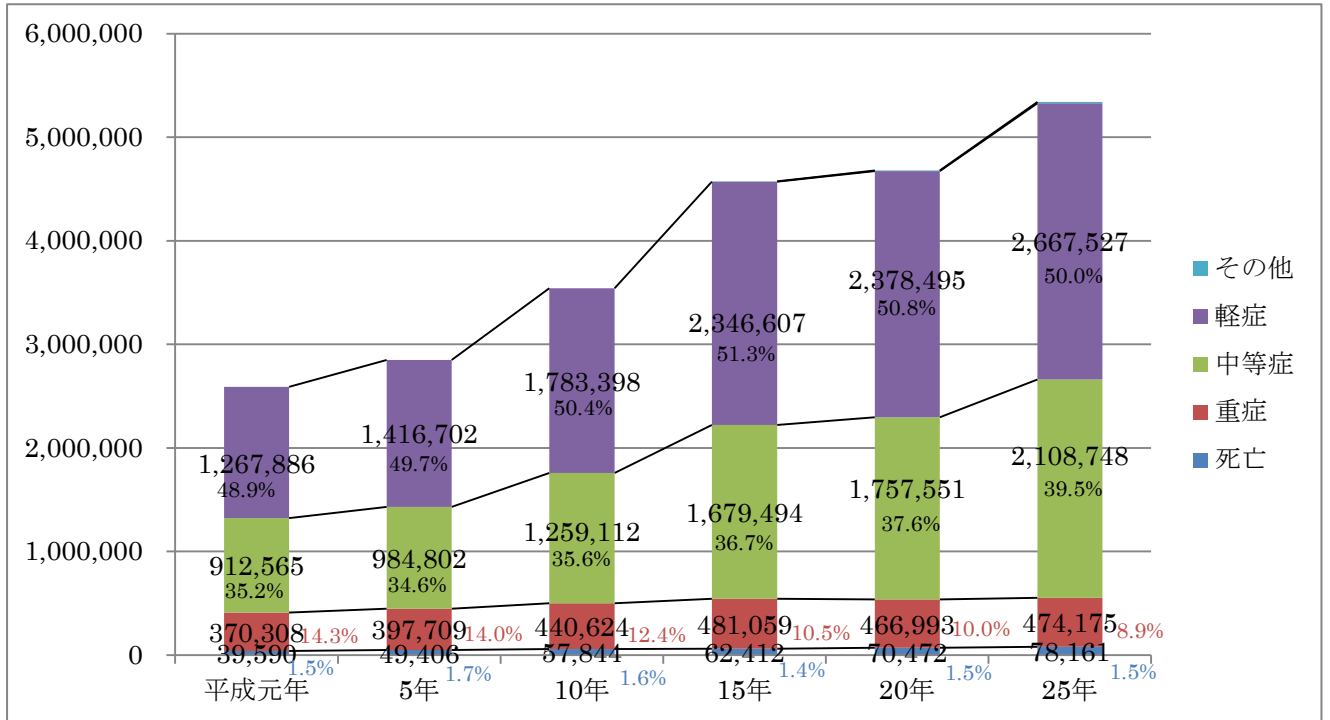
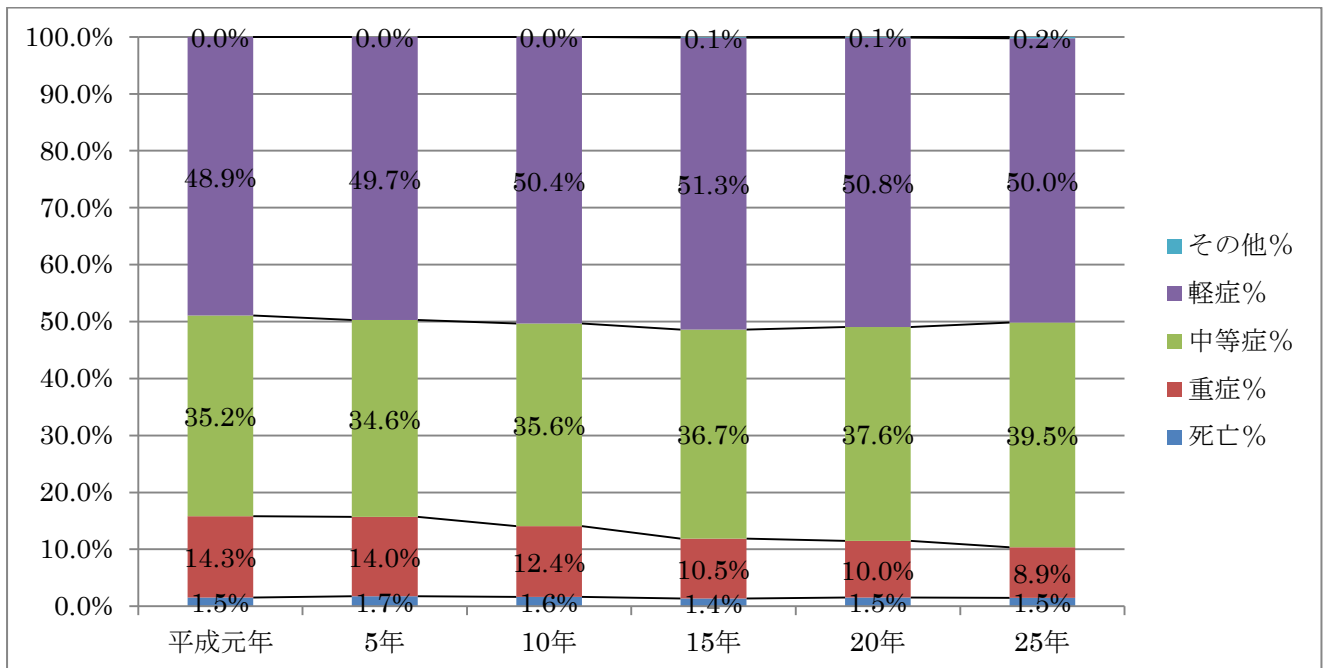


図 2 傷病程度別搬送人員構成比の推移



- 年齢区分毎に傷病程度別の搬送人員数の推移をみると、高齢者では、中等症及び軽症の増加が顕著である一方で、重症は横ばいである。
- 高齢者以外の年齢区分では、高齢者に比べ、全体的な増加傾向は弱い。
- これらのことから、高齢者の中等症及び軽症の増加が、傷病程度別搬送人員構成比の変化をもたらしていると考えられる。

図3 年齢区分別傷病程度別搬送人員数の推移

図3-1 高齢者

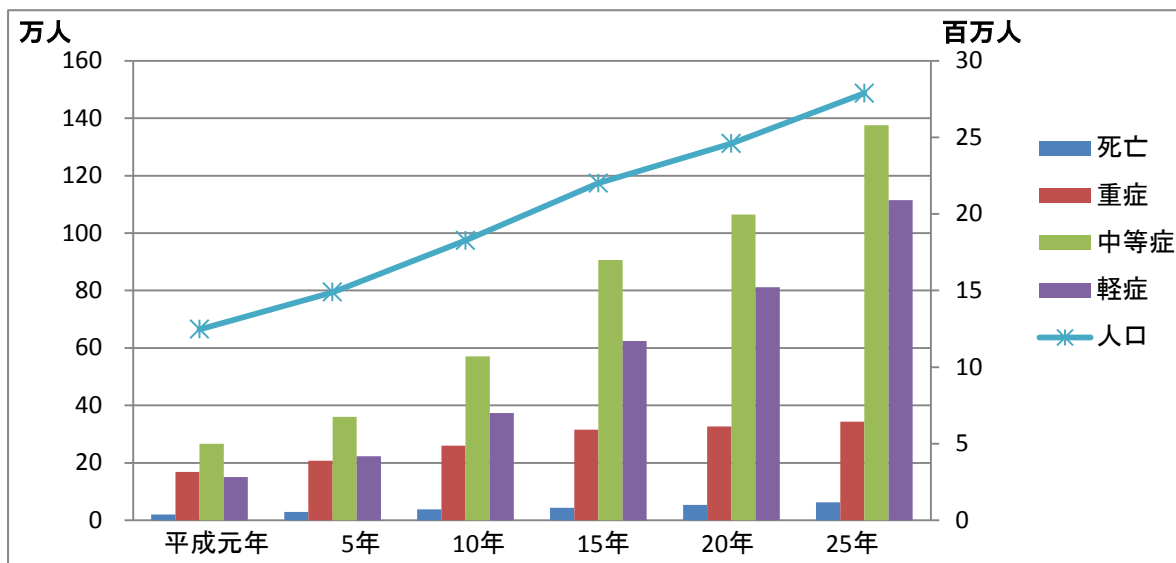
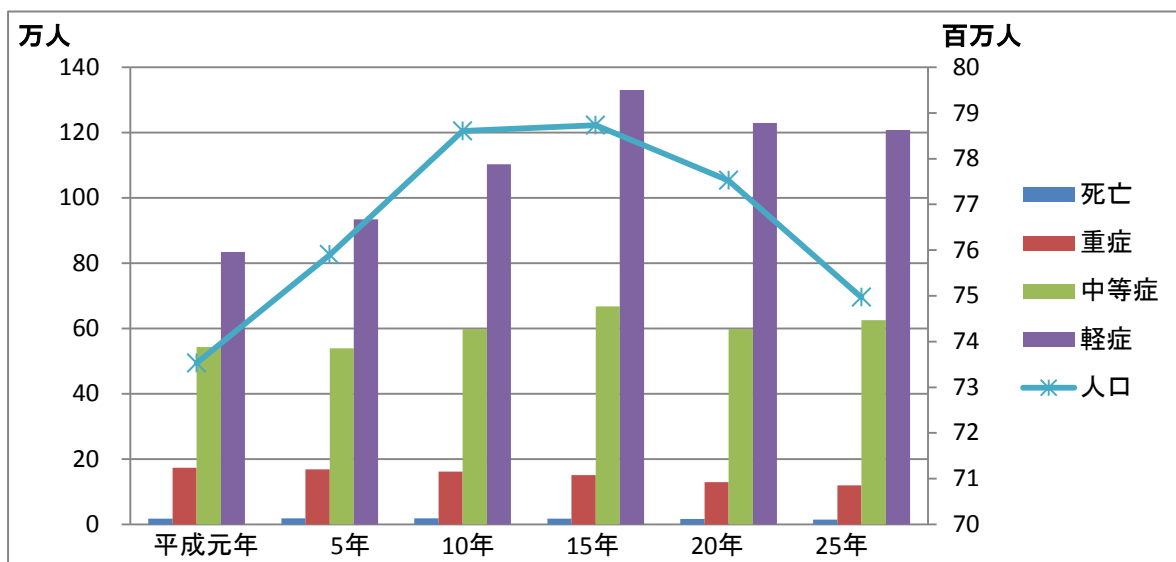


図3-2 成人



※ 人口は各年における最新の国勢調査人口（調査年：昭和60年、平成2年、7年、12年、17年、22年）
 ※ 搬送人員の年齢区分（新生児：生後28日未満、乳幼児：生後28日以上7歳未満、少年：7歳以上18歳未満、成人18歳以上65歳未満、高齢者65歳以上）
 ※ 人口の年齢区分（新生児：各年の出生者数*（出生数*28日/365日）、乳幼児：0歳以上5歳未満、少年：5歳以上20才未満、成人：20歳以上65歳未満、高齢者：65歳以上）
 *厚生労働省「人口動態統計月報年計(概数)」による。

图 3-3 少年

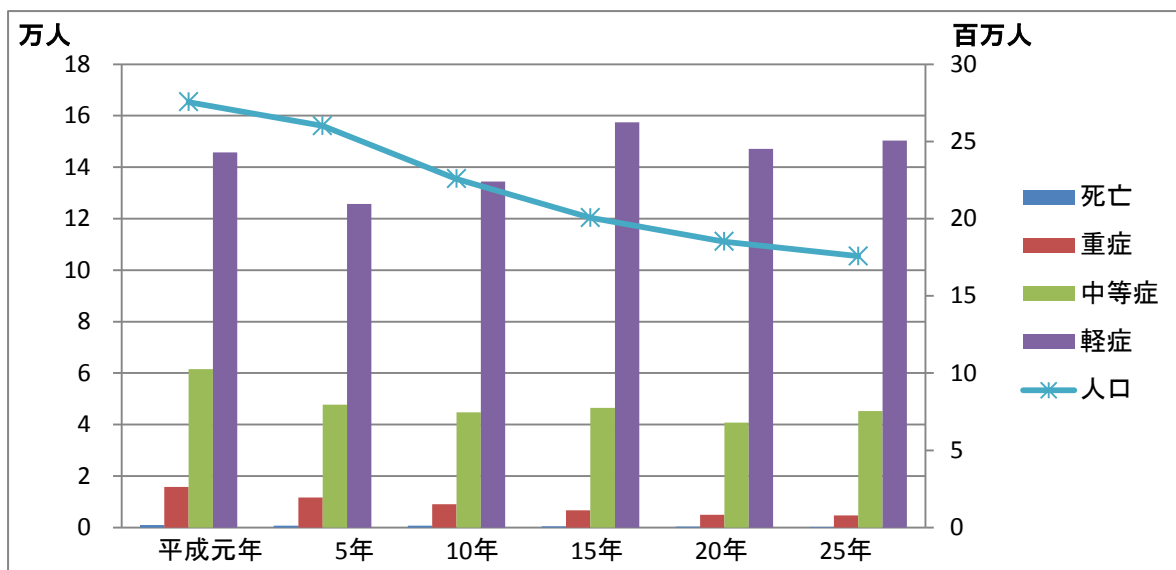


图 3-4 乳幼児

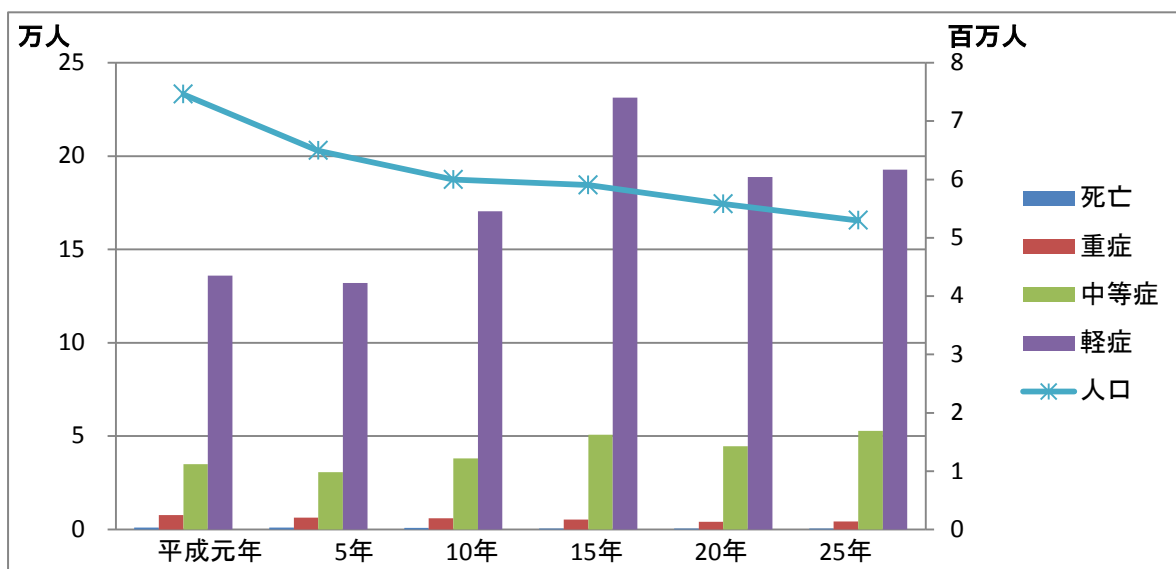


图 3-5 新生児

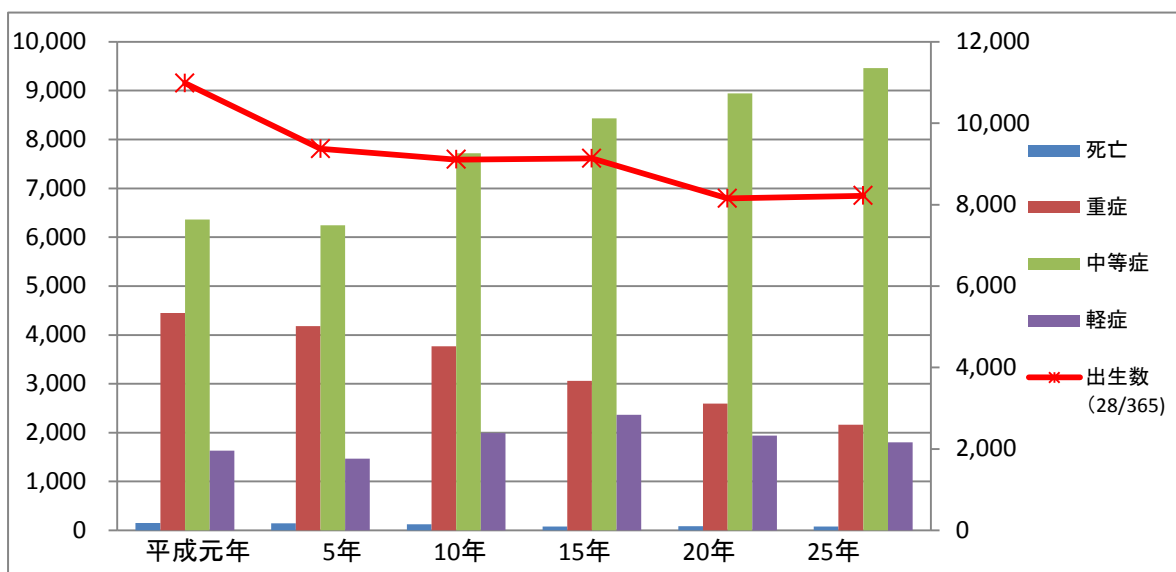


図4 傷病程度別年齢区分別搬送人員数の推移

図4-1 死亡

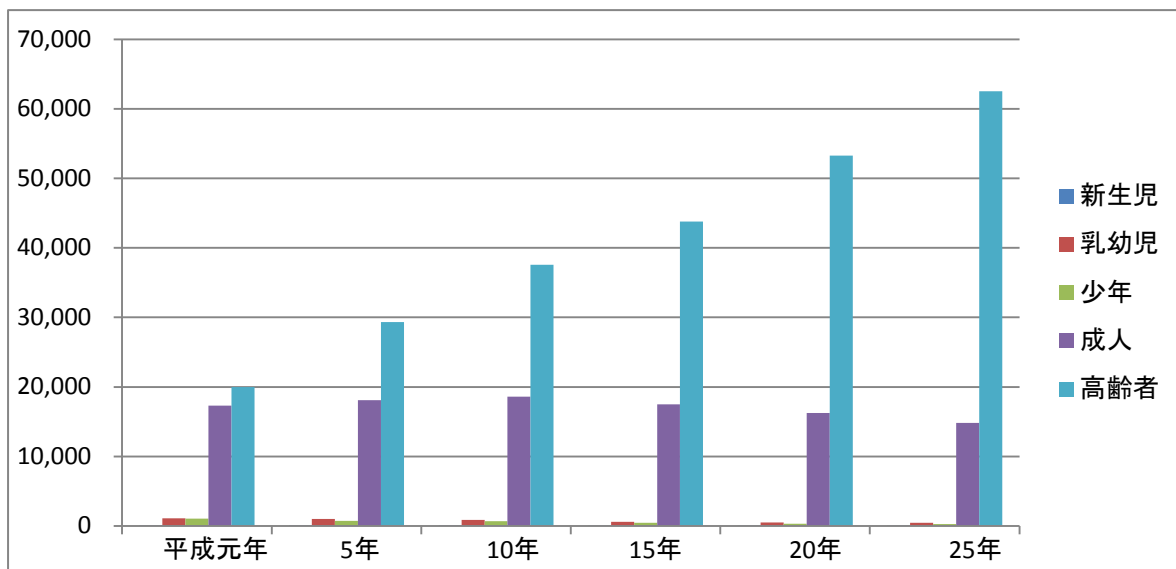


図4-2 重症

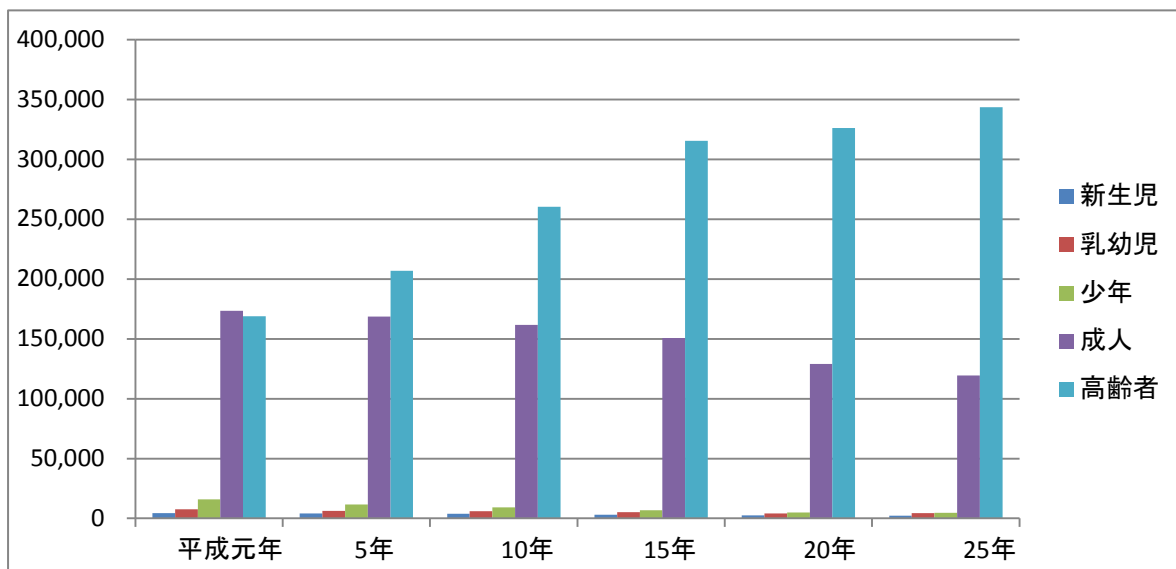


图 4 - 3 中等症

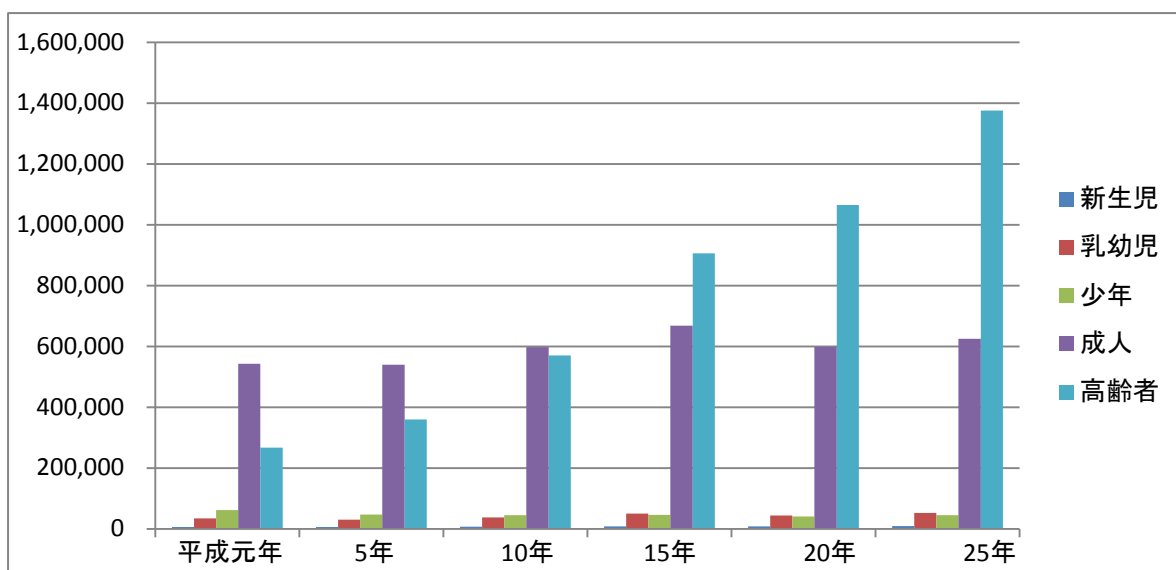


图 4 - 4 軽症

